

肺がん検診では、
二重読影が国の基準で
定められています。^{※1}

2人の医師が、別々にチェック。

胸部レントゲンのフィルムは、
2人の医師がじっくり調べることであります。
これが、肺がんの影を見落とさないために
国の基準で定められた、二重読影です。^{※2}

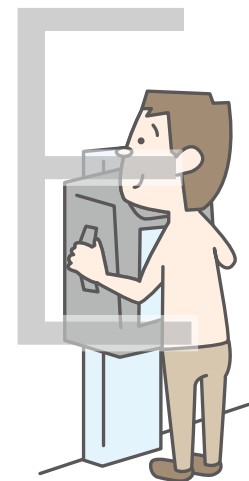
肺がん死の
2人にひとり、
たばこが原因とは
いえません。



たばこを吸わなくても、
肺がん検診を。

自己負担は1,000円です。

一年に
5分[※]
ください。



二人の医師が、
じっくり診ます。

市の特定健診と一緒に受けられます。

※1 厚生労働省「がん予防重点教育及びがん検診実施のための指針」

※2 検診では、がんでないのに「要精密検査」と判定される場合や、がんがあるのに見つからない場合もあります。

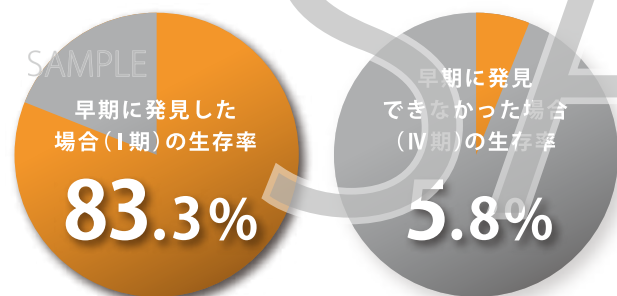
※ 5分とは、レントゲン検査にかかる時間です。

初期には自覚症状がほとんどないのが、肺がんの怖さです。

とくに肺の奥にできるがんほど、咳や痰などの症状が出にくく、気づきにくいのが特徴です。自覚症状がないので、初期の肺がんは検診でなければほとんど見つかりません。



早期に発見すれば、生存率が高いがんです。^{※1}



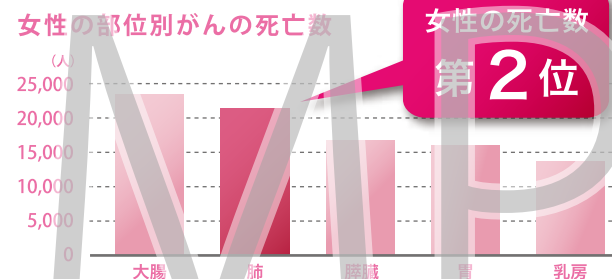
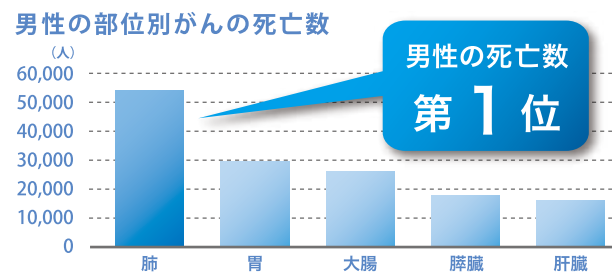
早期に発見するために、自覚症状がなくても検診は毎年定期的に受けることを強くお勧めします

ただし、血痰、長引く咳、胸痛、声のかれ、息切れなどの症状がある場合は次の検診を待たずに医療機関を受診してください。

たばこを吸う人は、たばこを吸わない人に比べて肺がんで死亡するリスクが高くなり、たばこを吸う本数や年数が多いほど肺がんになりやすいという研究結果が出ています。喫煙者本人のみならず、禁煙によってご自身と周りの人の健康な肺を守りましょう。

※1 ここでの「生存率」とは、診断時からの5年相対生存率です。相対生存率は、がん以外の原因で亡くなる人の影響を除いた数値です。
出典：全がん協加盟施設における5年生存率（2009～2011年診断例）

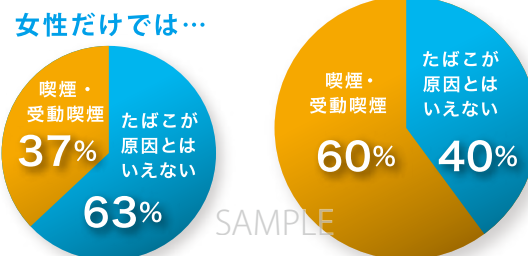
肺がんは、死亡数が男女合わせていちばん多いがんです。



出典：国立がん研究センター がん情報サービス「がん登録・統計」人口動態統計(2018年)

肺がん死の2人に一人は、喫煙者でも受動喫煙者でもありません。^{※2}

肺がん死の原因(男女)



※2 Inoue M et al. (Ann Oncol 2012;23:1362-1369)をもとに推計

このリーフレットは、国立がん研究センター希望の虹プロジェクトが作成しました。

検診の流れ

1. 受診場所・受診日を選ぶ

同封の一覧表をご覧ください。

2. 受診

自己負担金0,000円を支払い受診してください。

■ 受診内容

- ・問診 ・胸のレントゲン撮影
- ・喀痰(かくたん)細胞診(問診により必要な方のみ)

3. 結果^{※3}

約2～3週間後に自宅に郵送されます。検査結果を確認してください。

検診で「要精密検査」となった場合は、その後必ず精密検査を受けてください。精密検査はCT、もしくは気管支鏡検査などです。

■ 対象者：〇〇市在住の40歳以上の方

■ 受診期間：令和〇〇年〇月〇日～令和〇〇年〇月〇日まで

肺がん検診は助成がない場合5,000円程度かかりますが、市から助成が出るため、自己負担0,000円で受診できます。

検査費用 約0,000円
－ 助成金 約0,000円

自己負担金 0,000円

※3 検診は自治体と、各医療機関が連携して行っています。精密検査の結果は関係機関で共有され、市区町村へと報告されます。また、最初に受診した医療機関と異なる医療機関で精密検査を受けた場合は最初に受診した医療機関にも後日、精密検査結果が共有されます。(医療機関の検診精度向上のため)

お問い合わせ先

〇〇市〇〇部〇〇課

〒〇〇〇-〇〇〇〇 〇〇市〇〇町〇〇丁目〇〇番〇〇号

電話〇〇〇-〇〇〇〇-〇〇〇